

日本図書館情報学会会報

No. 131

2008年11月

日本図書館情報学会事務局
〒305-8550 茨城県つくば市春日 1-2
筑波大学大学院図書館情報メディア研究科 内
E-mail: jslis-info@slis.tsukuba.ac.jp
学会ホームページ: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/>
郵便振替口座:00160-5-45759 (口座名義=日本図書館情報学会)

2008年度日本図書館情報学会臨時総会のお知らせ

会員各位

日本図書館情報学会会長
根本 彰

2008年度日本図書館情報学会臨時総会を下記のとおり、第56回研究大会の第2日目に開催いたしますので、ご案内申し上げます。会員各位におかれましては、多数ご出席下さいませようお願いします。
なお、総会の議事終了後、同会場において、2008年度学会賞・奨励賞・学会活動貢献賞の授与式を行ないます。

記

日時 2008年11月16日(日) 13:15~14:15
会場 帝塚山大学 学園キャンパス 16号館 16602
議事 1 2008年度定例(通信)総会の議案投票結果について
2 委員会報告

2008年度日本図書館情報学会定例(通信)総会の投票結果

有権者数	653 (投票用紙発送数)
投票総数	249
有効投票数	236 (2008年6月21日の消印までを有効投票とした)
有効投票率	36.1% (2007年度 有効投票率: 29.9%)
無効投票数	13

		賛	否	白票
第1号議案	2007年度事業報告	234	0	2
第2号議案	2007年度決算報告および会計監査報告	233	1	2
第3号議案	2008年度事業計画案	234	0	2
第4号議案	2008年度予算案	234	0	2

日本図書館情報学会規約第11条第1項(全正会員の5分の1)により総会は成立し、第11条2項(出席会員の過半数)により、全議案は承認され、成立した。

正会員から寄せられた学会運営全般に関するご意見への回答

〔ご意見〕通信総会ではなく、5月か6月に総会と研究大会、秋に研究会というプログラムへの変更が必要ではないでしょうか。また、会報の電子化を進め、電子版の送付者には印刷版の送付をしない等の省略化を行うべきでしょう。

〔回答〕現在の通信総会という意思決定の方法はかなり早い時期から採用されています。このようになったのは、全国学会の宿命で総会への出席率が低く、たとえ委任状方式を用いても会員の総意が得られにくいことにありました。この点は現在でも事情は変わっていません。通信総会では議論がしにくいという大きなデメリットがあることは確かですが、今回のようなアンケート調査なども含めて会員の意向をできるだけ把握しつつ、理事会から議案を提案し、それに投票していただく方法をしばらく続けたいと思います。(会長)

〔ご意見〕各委員会等の交通費を今後各委員の手弁当にして、学会に貢献していただけるようにすれば、支出減となります。現在、いくつかの学会はこの方法で運営されています。

〔回答〕現在、学会の役員、委員の方には既定の交通費をお支払いしています。確かに支出を極限まで切り詰めようとするれば、手弁当方式になるかと思いますが、会員アンケートでも学会活動をそのレベルにまで絞る案(1案)に対する賛成は多くはないようです。当面この方式は継続する予定ですが、今後の財政状況次第で再検討が必要になるかもしれません。(会長)

〔ご意見〕監査報告で、財政の支出や事業運営の方針について、まったく述べられていないのは問題です。財政の事情について、きちんと評価し、「意見」を述べてもらいたいと思います。執行部が自ら語るだけでは不十分です。

〔回答〕本年5月17日の理事会の席上で、監査から、「今回の会計監査の際に学会の一般会計が危機的状況にあると認識したので、効果的な対策を講じてほしい」との注意が喚起されています。今回の会員アンケートをはじめとする常任理事会での検討はその注意に基づいて行っていることを付け加えます。(会長)

〔ご意見〕電子投票を続けた方がよいのではないのでしょうか

〔回答〕ご指摘の通り、電子投票を含め学会活動の電子化の推進は当学会の主要な目標の一つです。残念ながら、今年度、定例(通信)総会において電子投票を行わなかった理由は、会報130号にお示した通りです。一方、今年度の定例(通信)総会では、正会員の皆様のおかげで、郵送投票のみで36.1%という比較的高い有効投票率を達成することができました。今後、学会財政が健全化いたしましたら、できるだけ早く電子投票システムを導入したいと考えています。(総務委員長)

〔ご意見〕細かなことですが、決算、予算をみて思ったこと 1. 銀行の普通預金しか口座がないようですが、収入と出金とスケジュール化して、定期預金口座も開設して、多少なりとも利息収入を増す 2. 郵便振替の加入者負担金が値上りしたので会費の振込は郵便局窓口ではなく、機械振込で行うよう指示して、負担金の減額を企る。

〔回答〕ご意見誠にありがとうございます。検討させていただきます。(事務局)

正会員から寄せられたアンケート調査に関するご意見一覧

注：アンケート項目は「1. 支出を減らすために活動範囲を最低限のものに縮小する」、「2. 活動範囲を維持しつつ基本的な収入源である会費を値上げする」、「3. 学会誌への論文掲載料を徴収するなど受益者負担を求め」でした。以下の意見をご覧になる際の参考としてください。

●財政悪化の直接的原因とされている学会誌、会報の経費節減は必要ですが、そのために活動範囲を最低限に減少させるのは本末転倒だと思います。2, 3の選択肢は万策尽きたときの検討課題ではないのでしょうか。

●活動状況からすると会費値上げもやむを得ないかと思います。学会誌を年報化するという方法もあるでしょうが、基本スタイルの変更がコスト削減になるか疑問です。学生会員の割合/数が少ないのは何故でしょうか。以上、とりとめもなく。

●会費及び学会誌投稿料は、いわゆる非正規雇用の研究者のことも考慮していただけたらと思います。

●3の論文掲載料は、正会員と学生とで差別化するなどして、少しでも投稿への障壁を軽くしてほしいと思います。

●学会誌はともかく、学会報は電子メールによるPDF版での配信はできないのでしょうか？(テキスト版でも良いのでしょうか…。)

●研究発表会においても、発表グループ毎に少額で受益者負担を求めても良いのでは？

●アンケート案3について受益者負担を求める場合に、学生(院生)等への配慮が必要と思います。

●アンケートについて活動内容の見直しは定期的に行う必要があると思いますが縮小という方向を推進すべきではないと思います。なぜなら元来、過剰に事業を展開しているわけではなく、また本末転倒と思えます。

●活動範囲は現状より狭めない方が館界のためによいのではないかと思います。一方で、会費の値上げや投稿料の徴収は、若い研究者の負担増になり、活動の停滞につながるのではないかと心配です。どちらかと言えば、会費を値上げするのはやむを得ないのかも知れません。

●1.そのために学会活動が不活発になる。2.値上げは正会員のみ。院生など学生会費は値上げしない。3.学生会員は除外する。

●この学会だけに入っているのではなく、値上げには反対せざるを得ない。最初からの会員として、できれば终身続けたいが。

●学会の活動を全体で支えるための会費の値上げはやむを得ない措置と思いますが、学会誌への論文掲載料の徴収は投稿者の固定化を招く恐れもあり、反対です。高々600人強の会員数では、避けるべきではないでしょうか。2.やむをえない場

合。

●学会運営について、会費の件については、十分検討していただきたく存じます。「値上げ」はよく出てくる案ですから。

●アンケート調査に記入したとおり、必要な事業は維持する方針で検討していただきたい。ただし、会報については印刷体での発行は止め、電子版(+PDF版も作るか?)のみとすることで良いのではないかと考える。わずかな節約ですが。

●1で賛成をえらんだら2は反対をえらばないと矛盾したりしないのでしょうか…

●会報の受け取り方として、電子版のみで郵送は不要、という選択肢があってもよいのではないのでしょうか。

●私の所属している他学会と比較して当学会は会費は割安であると考えます。また、論文誌の掲載料を(または別刷料)徴収している学会も少なくないと思います。学会活動を発展させつつ安定した(収支バランスのとりのやすい)運営の可能になる方策を選択することが妥当だと考えます。

●学会誌の総ページ数(掲載論文数)の上限を定める。会報の刊行頻度を固定化する等の対応は考えられないのでしょうか。

●論文掲載料には反対しますが、希望者に対する別刷(贈呈分以外)の販売など、双方にメリットとなる形ならば問題ないと考えます。

●1本の論文のページ数を減らし、執筆投稿を促す一方で従来の分量の場合は、掲載料負担を求めるといような方法を考えられるのではないかと。

●(3.受益者負担について)ここではこのコトバが適切か否か、一考を要す。

●(2.最低限のもの、3.会費を値上げについて)どの程度かによると思う。

●不要なイベントや委員会の見直し等

●「新たに収入が得られる事業」は、あてにしない方がいいと思います。ある時期、収入が得られても、恒常的に収入が得られるとは限りません。また、事業には、人手と資金が必要です。つまり、事業には、

損失が生ずるリスクがあります。学会は、会費と受益者負担のみによって、地道に運営すべきです。

●アンケート欄について1.～3.の項目を併用するかたちで運営すればという意図からすべての項目について「賛成」とさせていただきました。

正会員から寄せられたその他のご意見一覧

●前委員長の小田先生の編集方針には大賛成です。今後も引き継がれることを望みます。「Chomsky.N.氏の論文がIREに載った」ということを言うと大げさなたとえになりますが、本学会誌も後世でも参考されるようになって欲しいです。

●電子ジャーナルの値上げは深刻です。多国籍企業に有利に世界は動いています。新しい科学コミュニケーションの改革も至難です。著者の分身である論文アクセスの自由化を世界の大手出版社に希望します。あわせて、著作者人格権の意義を再考していきたいものです。

●質的向上を！会費納入の振替用紙は、3月に送付されたし。

●具体的活動はしていませんが重要な研究領域と認識しています。今後独自の研究をしていきたいと考えているので、引続きよろしくお願い致します。

●事務局への激励・報告事項など(23件)

「今後の学会運営についてのアンケート調査」集計結果

表1. 「今後の学会運営についてのアンケート調査」集計結果

	1. 活動範囲最低限		2. 会費値上げ		3. 受益者負担	
賛成	72	28.9%	113	45.4%	106	42.6%
反対	103	41.4%	72	28.9%	71	28.5%
どちらでもない	64	25.7%	57	22.9%	64	25.7%
白票	10	4.0%	7	2.8%	8	3.2%
合計	249	100%	249	100%	249	100%

※この集計結果には、定例（通信）総会における無効票も含まれています。

「1. 支出を減らすために活動範囲を最低限のものに縮小する」は、「反対」が103（41.4%）と最も多く、「2. 活動範囲を維持しつつ基本的な収入源である会費を値上げする」は、「賛成」が113（45.4%）と最も多く、「3. 学会誌への論文掲載料を徴収するなど受益者負担を求める」は、「賛成」が106（42.6%）と最も多かった。したがって、今後の運営方針のうち、正会員に最も選好されたものは「会費値上げ」であり、最も反対が多かったのは「活動範囲を最低限にする」ことでした。その一方で、いずれの質問項目においても、「どちらでもない」や「白票」が四分の一程度あり、態度を保留する正会員も少なくありませんでした。

今後の学会運営についての中間報告

会報の前号で、学会財政の危機的状況についてご報告し、今後の運営の在り方について正会員を対象としたアンケート調査を実施させていただきました。これに対して多数の会員から回答が寄せられ、

また、自由記述欄にご意見をいただきました。たいへん参考になる提言や意見をいただきまことにありがとうございます。

さて、今回の財政危機をもたらした要因の一つに、今年度の予算のなかでも一般会計の支出総額の約半分を占める学会誌印刷費の高騰がありました。そこで、ここ30年ほど印刷を依頼している(株)東京プレスと直接交渉した結果、今後の印刷費の算定ベースを3割程度引き下げ、しばらくの間、それに基づいた割引きをしてもらうことで合意しました。

詳しいことは11月の理事会に報告した上で次号の会報で会員の皆様にも報告したいと思います。ともかくこれによって、当面の財政危機は乗り越えることができることになり、現時点では会費値上げ等の大きな変更を提案せずに済みそうだということを報告いたします。

財政危機に対しては一応の見通しがついてきましたが、今回実施したアンケートの結果は今後の活動を行うにあたって参考にすべき点が多く、常任理事会としてはこれを参照しながら運営にあたっていく所存です。会員の皆様の今後のいっそうのご支援、ご協力をお願いいたします。

2009年アジア太平洋図書館・情報教育国際会議 (A-LIEP 2009) のご案内

日本図書館情報学会は、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科、筑波大学知的コミュニティ基盤センターと共催で、社会の情報化とグローバル化に対応できる情報専門職の養成と新たな情報環境を踏まえた図書館・情報教育プログラムの構築に向けたアジア地域の協調を目指して、各国の研究者・教育者・実践者と課題を共有し、解決策をともに探求するため、2009年アジア太平洋図書館・情報教育国際会議(A-LIEP 2009)を以下の要領で開催いたします。

■メインテーマ：図書館・情報教育の国際化

■日時：2009年3月6日(金)～8日(日)

■会場：筑波大学 春日キャンパス (茨城県つくば市春日1-2)

■主催：日本図書館情報学会；筑波大学図書館情報メディア研究科；筑波大学知的コミュニティ基盤センター

■協賛：情報知識学会；三田図書館・情報学会；情報メディア学会

■後援：国立国会図書館；国立情報学研究所；日本図書館協会

■参加費：一般：30,000円；主催・協賛学会会員：25,000円；学生：20,000円

※会費には資料代、懇親会参加費、7日・8日の昼食代を含みます

■会議、及び、参加申込等の詳細については、<http://a-liep.kc.tsukuba.ac.jp/>をご覧ください。

■プログラム(予定)：

※全てのプログラムは英語で行われますが、第三日目の基調講演・シンポジウムには日本語同時通訳が付きます。また、三日目の学会主催のワークショップは全て日本語で行われます。

第一日目(2009年3月6日[金])	
10:00-13:00	受付
13:00-14:00	研究発表
14:30-16:30	パネル・ディスカッション 「アジアおよび太平洋地域における情報学教育機関の協調」
16:45-17:15	スポンサー・セッション
18:00-	歓迎会(レセプション)

第二日目(2009年3月7日[土])			
9:30-11:00	研究発表		
11:15-12:15	基調講演 『転換点に立つ図書館』 長尾真氏(国立国会図書館長)		
12:15-13:30	昼食		
13:30-14:15	ポスター・セッション		
14:30-17:30	研究発表		
17:45-18:30	研究発表		
19:00-	懇親会(バンケット)		
第三日目(2009年3月8日[日])			
9:00-10:00	基調講演(日本語同時通訳付き) 『変革をもたらす情報学教育機関の登場』 Ronald Larsen 氏(ピッツバーグ大学大学院情報学研究科長)		
10:30-13:00	シンポジウム(日本語同時通訳付き) 『図書館情報専門職の国際化と将来の展望』 パネリスト: Nitecki Danuta 氏(イェール大学, アメリカ) Christopher Khoo Soo Guan 氏(南洋理工大学, シンガポール) Leif Kajberg 氏(王立図書館情報大学, デンマーク) Sung Been Moon 氏(延世大学, 韓国) 根本 彰氏(東京大学, 日本) 三輪 眞木子氏(メディア教育開発センター, 日本)		
13:00-14:30	昼食		
14:30-16:30	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 談話会(英語) 『図書館情報学プログラムの品質保証に関するFDの協調』 モデレータ: Chihfeng P. Lin 氏(世新大学, 台湾) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ワークショップ(日本語) 『図書館情報学教育における国内カリキュラムの標準化に向けてー日本における図書館情報学検定試験についてー』 </td> </tr> </table>	談話会(英語) 『図書館情報学プログラムの品質保証に関するFDの協調』 モデレータ: Chihfeng P. Lin 氏(世新大学, 台湾)	ワークショップ(日本語) 『図書館情報学教育における国内カリキュラムの標準化に向けてー日本における図書館情報学検定試験についてー』
談話会(英語) 『図書館情報学プログラムの品質保証に関するFDの協調』 モデレータ: Chihfeng P. Lin 氏(世新大学, 台湾)	ワークショップ(日本語) 『図書館情報学教育における国内カリキュラムの標準化に向けてー日本における図書館情報学検定試験についてー』		
16:30-16:40	閉会式		

会報の電子配信に関するお知らせとお願い

当学会では、会員に対して、メール版会報の配信を行うとともに、ウェブサイトにも会報をアップデートしてきました (http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/publications_5.html)。但し、これは、将来の会報電子化に向けての経過的措置として暫定的に行われてきたものであり、「印刷版」と「メール版」とでは、個人情報保護等に配慮して、一部内容が異なっていました。

会報の送付方法については、原則として、入会の際に、電子メールアドレスを登録した会員全員にメール版会報を送付するとともに、メール版会報不要の場合は、その旨、事務局に連絡をしていただくという方針で運用しています。

表2. 会報の受け取り方法の分布について

	人数	比率
両方	558人	75.1%
印刷版のみ	122人	16.4%
メール版のみ	63人	8.5%
合計	743人	100%

表2にお示した通り、現在、印刷版会報とメール版会報の双方を受信している会員が、全体の4分の3以上を占めています。一方で、メール版のみを受信する会員は全体の1割にも達していません。また、印刷版会報のみを受け取っている会員は122名（16.4%）と、決して少なくありません。したがって、現時点で、会報を電子配信のみとすることは、時期尚早であると考えられます。

さて、2008年度定例（通信）総会においても承認されました通り、学会活動の電子化は、情報伝達の効率化、ならびに、学会財政再建策の一環として、積極的に推進することが求められていると認識いたします。そこで、今後、「印刷版会報」だけでなく、「メール版会報[PDF]」を学会の正式な会報として位置付け、「印刷版会報」と「メール版会報[PDF]」の内容を完全に同一のものとするとともに、会報の電子配信率の向上に努めたいと思います。

つきましては、会員各位には、以下の二点についてお願い申し上げます。

- (1) 現在、印刷版会報とメール版会報の両方を受け取っている方は、できるだけ、メール版会報のみを受信するようお願いいたします（学会事務局まで、電子メールにてご連絡ください）。
- (2) 現在、印刷版会報のみを受け取っている方は、できるだけ、メール版会報も併せて受信するようお願いいたします（学会事務局まで、電子メールにてご連絡ください）。

会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、会報の種別による相違点を、下記の表3にまとめましたのでご覧ください。

表3. 会報の種別について（No. 131号[今号]以降）

会報の種別	内容と構成	備考
印刷版 [メール便]	内容・構成ともに、メール版[PDF]と同じ	クロネコメール便にて発送しておりますので、送付先住所が変更になった場合は、速やかに、学会事務局までご連絡ください。
メール版 [テキスト]	会員異動情報、および、図表等を割愛 独自フォーマット	PDF版の配信に伴い、No. 131（今号）以降廃止
メール版 [PDF]	内容・構成ともに、冊子版と同じ	「ファイルの閲覧・印刷」が可能 「ファイル内容のコピー」および「ファイルからの情報の自動抽出」は不可能（ウェブ版も同様）
ウェブ版 [PDF]	内容・構成ともに、メール版[PDF]とほぼ同じ 会員異動情報のみ割愛	メール版と同時にアップデート 会報の記載内容に誤りがあった際、随時訂正を加えることが可能

会報の受け取り方法の変更については、「会員名」、「所属」、「メールアドレス」等を銘記の上、学会事務局（jslis-info@slis.tsukuba.ac.jp）まで、電子メールにてご連絡ください。

会報の受け取り方法の変更のみ希望の場合は、「会員情報変更申請書」にご記入いただく必要はありません。希望する変更内容についてのみ記載してください。

2008年度研究助成の決定

2008年度の研究助成（上限10万円）について4件の応募があり、研究委員会にて審議いたしました。昨年と同様の6点の評価基準（[1]研究目的の明確さ、[2]研究の独創性、[3]遂行可能性、[4]成果の公表可能性、[5]申請金額の妥当性、[6]研究組織の適切性）を用いて各委員が付与した評価点に基づき議論した結果、次の1件に10万円の助成を行うことに決定いたしました。

研究代表者：須賀千絵（慶應義塾大学文学部 [非常勤]）

研究題目：英国の地方自治体による「地域図書館事業」における諸アクターの相互関係

各委員会・事務局から

『日本図書館情報学会誌』投稿募集と投稿先の変更について

編集委員会の連絡先（投稿先）が、2008年7月26日から2009年3月31日まで、下記の通り、変更されました。なお、この期間中は、田村俊作常任理事が編集委員長を代行いたします。

〒108-8345

東京都港区三田 2-15-45 慶應義塾大学文学部

田村俊作研究室気付 日本図書館情報学会編集委員会

E-mail: tamaran@slis.keio.ac.jp

投稿はいつでも受け付けております。会員の皆様、どうぞ、ふるってご投稿ください。投稿規程ならびに執筆要綱は、本学会のホームページもしくは第52巻2号（2006年6月号）を、ご確認願います。投稿原稿の審査手続ならびに関連文書は、第52巻3号（2006年9月号）を、ご参照ください。また、論文投稿にあたってのチェックリストを、第53巻1号（2007年3月号）および53巻2号（2007年6月号）に掲載しましたので、ご活用願います。

学会賞選考委員会からのお知らせ

学会賞選考委員に、田村俊作常任理事が就任しました。

2008年度までの会費納入のお願い

2008年度までの会費未納の方は、すみやかに会費を納入ください。

振込先：郵便振替口座：00160-5-45759 （口座名義＝日本図書館情報学会）

会員情報の変更について

住所、電話番号、所属先、メールアドレス、会員種別等の変更については、学会ウェブサイトの「会員情報変更申請書」（下記URL）にご記入いただき、事務局までメールでお送りください。

会員情報変更申請書：http://wwwsoc.nii.ac.jp/jslis/membership_3.html

会員情報に関する問い合わせ先：jslis-info@slis.tsukuba.ac.jp

退会について

退会については特に書式はございませんので、メールもしくはFAX・郵送にてご連絡ください。2007

年度末の退会届け出は、2008年5月31日が締め切りです。2007年度の会費はお支払いください。

メールマガジンについて

総務委員会では、メールマガジンを発行しています。本学会、ならびに、他団体等からのお知らせのうち、速報性が重視されるものや、会報でご案内できないものを主な内容とし、随時発行しています。掲載・講読希望の方は、jslis-info@slis.tsukuba.ac.jpまで電子メールにて、ご連絡ください。

事務局受領資料リスト

・日本図書館協会図書館学教育部会編『日本の図書館情報学教育 2005』日本図書館協会、2008
※会員の皆様が図書館情報学関係の著作を刊行された際には、可能であれば事務局まで1部お送りいただければ幸いです。書評対象文献の選定、ならびに、学会賞選考の際の参考とさせていただきます。

関連行事のお知らせ

人文科学とコンピュータシンポジウム 2008 (じんもんこん:-)2008) のお知らせ

テーマ：サービス指向のデジタル技術へ～人文科学のポテンシャル～

会期：2008年12月20日(土)・21日(日)

会場：筑波大学 筑波キャンパス 春日地区 (〒305-8550 つくば市春日 1-2)

主催：(社) 情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会

参加費：情報処理学会会員・研究会登録会員 6,000円(当日8,000円)

共催・後援団体会員 6,000円(当日8,000円)

一般 8,000円(当日10,000円)

学生 2,000円(当日3,000円)

基調講演(20日[土]): 展示デザイナー 木下史青(東京国立博物館 学芸企画部企画課デザイン室長)

連絡先：じんもんこん 2008 実行委員会

Email: chs-08@slis.tsukuba.ac.jp

住所：〒305-8550 つくば市春日 1-2 筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科

FAX: 029-859-1093

詳しくは「じんもんこん 2008」公式ページ (<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/chs08/>) をご覧ください。

Web とデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum) 2008 のお知らせ

開催趣旨：

近年、人類が創出する情報量が爆発的に増大しており、大量かつ多様な情報から必要な情報を効率的に活用するための技術が重要になってきました。本フォーラムは、情報処理学会データベースシステム研究会、日本データベース学会、電子情報通信学会データ工学研究専門委員会の共催、また、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「情報爆発時代に向けた新しい IT 基盤技術の研究」の協賛により、情報爆発時代における DB と Web 技術をテーマに開催します。本フォーラムでは、情報爆発時代に向けた各種特別セッションや、この分野における産学連携に関連する各種企画、Web 情報システムやデータベース技術についての最新研究成果の一般発表セッション等を通じて、招待講演、研

究発表，パネル討論などの形態で議論する場を設けます。また，多様なコミュニティの交流を深め，議論を行うことができるポスターレセプションを開催します。

日 程：2008年12月1日（月）・12月2日（火）

会 場：学習院 創立百周年記念会館（東京都豊島区目白1-5-1）

主 催：情報処理学会データベースシステム研究会，日本データベース学会，電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会

協 賛：文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究「情報爆発時代に向けた新しいIT基盤技術の研究」，電子情報通信学会 Web インテリジェンスとインタラクション研究会，ACM SIGMOD 日本支部，筑波大学 知的コミュニティ基盤研究センター，独立行政法人 物質・材料研究機構

照会先：実行委員長 森嶋厚行（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）

E-mail：mori@slis.tsukuba.ac.jp

詳細については、「WebDB Forum 2008」公式ページ (<http://db-event.jpn.org/webdbf2008/>) をご覧下さい。